

平成9(1997)年1月21日～22日 低温による被害

概況

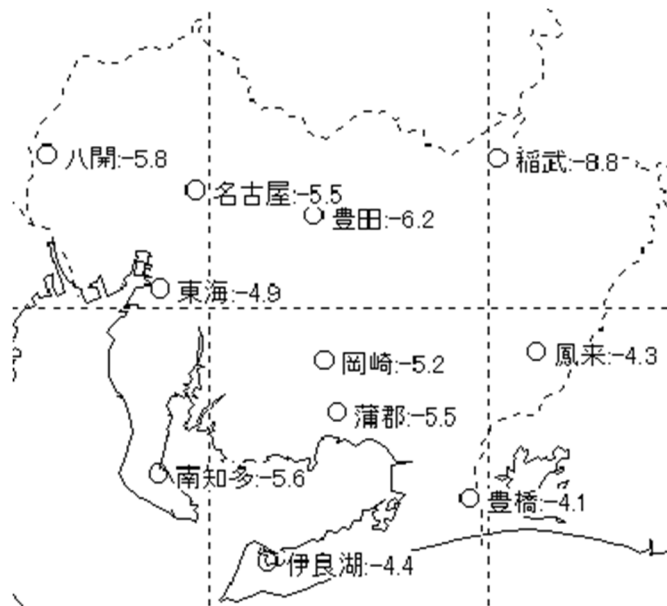
1月21日午後から22日にかけて、日本の上空約5,000m付近には大陸から進んできた -40°C 以下の非常に強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まった。このため、愛知県内では22日09時までには名古屋で4cm、八開で10cmの大雪となった。また、東海地方の上空約1,500m付近にも -12°C の寒が入り、県内では22日朝は厳しい冷え込みとなった。伊良湖では -4.4°C を観測し、統計開始(1947年)以来の「日最低気温の低い値」の1位を記録した。名古屋でも -5.5°C まで下がり、市内では水道管の凍結・破裂による被害が2,183件と多く発生した。

最低気温分布図

(平成9年1月22日)

22日朝の内にかけて県内では各地で -4°C 以下の厳しい冷え込みとなった。特に、三河地方の山間部、稲武では -8.8°C と最も冷え込み、豊田で -6.2°C 、八開で -5.8°C となった。

※各地の最低気温は名古屋・伊良湖は連続観測値から、その他は毎正時の観測値からの記録。



地上天気図(平成9年1月22日09時)

日本付近は21日夜から、西高東低の強い冬型の気圧配置となっている。

